2017年（平成29年）12月19日（火）岩手日報

# プロの技 シニアが学ぶ

## 県理容生活衛生同業組合 モデル事業を開始

### メーク法やカクテル作りも

小林昭仁さん（左）からノンアルコールカクテルの作り方を教わる高齢者ら

**北上** 県理容生活衛生同業組合（湊正美理事長）は18日、県内の生活衛生同業組合と連携し、高齢者の「交流サロン」でプロの技を手ほどきするサービスのモデル事業を北上市内で始めた。地区公民館などで体験学習を催し、地域コミュニティーの活性化と業界の振興を図る。国の補助金を活用し同市など県内4市で展開し、3年後に事業化を目指す。

同市有田町の有田公民館で開かれた黒沢尻24区のふれあいデイサービス事業「ほのぼの会」で同市での活動を開始。高齢者約30人が理容師から正しいシャンプーの仕方、美容師から若返りメーク法、すし職人から太巻きの作り方を学んだ。

カクテルの世界大会で技術世界一に輝いた同市青柳町のバー「スランジバール」のバーテンダー小林昭仁さんは、家庭でできるノンアルコールカクテルの作り方を教えた。

メークのモデルとなった同市有田町の横沢田則子さん(70)は「自分の眉よりも少し上に描いたり、唇が薄い人は少し広く口紅を塗るなど、とても勉強になった」と感心した。

厚労省の地域活性化連携事業の採択を受け北上、盛岡、宮古、久慈の4市で展開。県理容生活衛生同業組合副理事長で北上支部の鈴木久明支部長(64)は「プロから最新情報を得て、心豊かな暮らしになればうれしい。各組合について知ってもらい、店にも来てほしい」と広がりを期待する。

北上市でのサービスの問い合わせは市社会福祉協議会（0197・64・1212）へ。